

科 目	必・選	担 当 教 員	学年・学科	単位数	授 業 形 態
環境計画学 (Environmental Planning)	選	靄巻 峰夫	4 年生 環境都市工学科	学修単位 1	半期 週 2 時間
授業概要	環境保全・創造のための体系的施策展開を行う環境計画の目的・位置づけを理解するとともに、環境計画に必要な環境評価手法の内容を学習する。				
到達目標	①我が国における環境に関する事象の現状と課題について理解する。 (C) ②環境計画の枠組みと目的と立案すべき内容について理解する。 (C) ③水環境工学, 年環境工学 (C)				
評価方法	定期試験の結果55%, 第1～8回の演習の提出状況・内容を30%, 第9回の演習の提出・内容15%で評価する。				
教科書等	[教科書]羽田・江成著「環境工学」森北出版				
内 容	(15週間で授業を18回実施する。なお、1回の自宅演習は200分を目処にする。)				学習・教育目標
第 1 回	ガイダンス, 社会と環境の歴史	(自宅演習)	C-1 (d1)		
第 2 回	日本の環境政策 (1)	(自宅演習)	C-1 (d1)		
第 3 回	日本の環境政策 (2)	(自宅演習)	C-1 (d1)		
第 4 回	産業と環境 (1)	(自宅演習)	C-1 (d1)		
第 5 回	産業と環境 (2)	(自宅演習)	C-1 (d1)		
第 6 回	環境アセスメント (1) 環境アセスメントの枠組みと手続き	(自宅演習)	C-1 (d1)		
第 7 回	環境アセスメント (2) スコーピング	(自宅演習)	C-1 (d1)		
第 8 回	環境アセスメント (3) 環境保全措置と予測・評価	(自宅演習)	C-1 (d1)		
第 9 回		(自宅演習)			
第10回		(自宅演習)			
第11回		(自宅演習)			
第12回		(自宅演習)			
第13回		(自宅演習)			
第14回		(自宅演習)			
第15回		(自宅演習)			
第16回		(自宅演習)			
第17回		(自宅演習)			
第18回		(自宅演習)			

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。(【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつとなります。)

環境計画学 4学年

社会と環境の歴史（第1週）

我が国における公害・環境問題の歴史を学び、環境計画の必要性を理解する。
また、環境計画に盛り込まれる主な対策について系統的に学習する。

日本の環境政策（第2－3週）

我が国における環境保全・創造にかかる施策を学び環境計画の枠組みを理解する。

- ・環境基本法、環境基本計画
- ・環境基準
- ・規制基準
- ・誘導的施策

産業と環境（第4－5週）

我が国の産業界で行われている環境問題への取組について学習する。

- ・環境マネジメント
- ・ライフサイクルアセスメント
- ・環境ラベル

環境アセスメント（第6－8週）

環境アセスメントの手続き、評価基準、環境保全措置について説明できる能力をつけるため、以下の項目について学ぶ。

- ・環境アセスメントの基本的な枠組み
- ・環境アセスメントにおける予測と評価の考え方
- ・環境保全措置の考え方と方針設定
- ・環境アセスメントの実施計画（スコーピング）
- ・環境保全措置の立案
- ・簡易な事例に対する環境アセスメントの実施

演習課題について

毎回、演習課題の提出を求めます。特に第8回の演習課題は、水環境工学，都市環境工学，環境計画学の学習成果を活用した環境アセスメントの課題を出す。作業量が多く評価への寄与も大きいので留意すること。